

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.90

2021.11

## 当院での乳房再建手術の推移

形成外科



since2010



乳腺外科



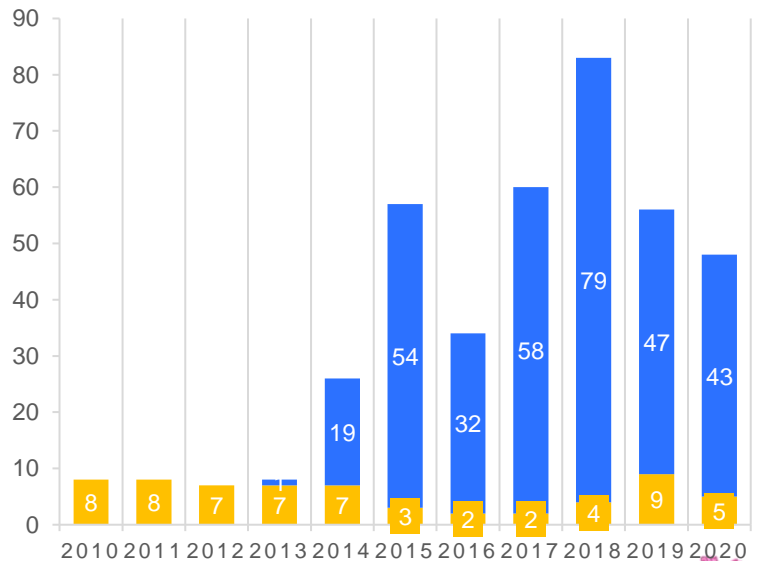
当院では2010年に形成外科が開設されてから、乳腺外科と連携して積極的に乳房再建を行なってきました。

当初は広背筋皮弁（背中の筋肉）を主とした自家組織再建のみを行っていましたが、2013年に人工乳房（シリコンインプラント）を用いた乳房再建手術が保険承認されてからは、患者さんに提示できる再建方法が増え、2020年時点で200人を超える患者さんに乳房再建を行っています。2014年以降は人工乳房を用いた再建が増えていますが、人工物を体内に挿入することに抵抗のある患者さんには、従来通り自家組織再建を行なっています。

人工乳房を用いた乳房再建術は身体への負担が少なく手術時間、入院期間が短いというメリットがありますが、合併症の一つとして術後感染が問題となります。2016年の全国調査では年間6500件ほど行われている組織拡張器挿入手術において、全体の2.6%（100人中3人弱）の患者さんが感染により抜去に至っているとの報告があります。しかし当院ではこれまで、感染により抜去に至った患者さんは一人もおりません。これは、乳腺外科と形成外科の双方において、十分な感染対策と慎重かつ丁寧な手術を行っている結果であると考えます。

また、これまではアラガン社製インプラントのみが保険承認されてきましたが、最近、シエントラ社製インプラントも保険承認され、さらに現在もう1社も承認申請しているとのことで、再建に用いるインプラントの種類を選択肢も増えています。当院では人工乳房再建と自家組織再建、それぞれのメリット・デメリットを説明し、患者さんに十分納得していただいたうえで再建方法を選択しております。詳細をお知りになりたい方は、当院形成外科または乳腺外科にお問い合わせください。

■ 自家組織再建 ■ インプラント再建



形成外科 望月 祐一

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865



KAZUKA